

繪事寶鑑卷之五目錄

九十九

祖師 秋也如身

百一

將行恒乃

百二

月下大笑

百三

教子

百七

條條栽松

百九

謂列物子

百十一

和子夜山

一百

桃花恒道

百二

丹處本佛

百三

松風

百六

知蓮華

百八

卷山安子

百十

古祖

百十二

燈鴨子

繪事寶鑑

百廿三

馬祖

百廿四

托鉢僧

百廿五

二祖立身

百廿六

二僧造屋

百廿七

拍樹子

百廿八

七瀨園梅

百廿九

善化

百三十

寺口

百卅一

睦列

百卅二

俱睦堂指

百卅三

四睦

百卅四

禮林揮扇

百卅五

大匠龜作

百卅六

石翠筆法

百卅六

丹霞畫世

百卅八

作山紅榜活

百卅九

金牛飯桶

百四十

白麻乞回

百卅一

高亭橫鶴

百卅二

高岩果

百卅三

南泉斬板

百卅四

德山轉經

百卅六

多教樹上

百卅六

女子出家

百卅七

美社陽親

百卅八

六祖風懷

百卅九

南泉牡丹

百卅九

半泥金方

百四十

乳華下海

百四十

大甲天子

百四十二

南泉茅鎖子

百四十二

吾財一枝草

百字六

維摩不二法

百字六

文殊五番回香

百字七

陳迹法理

百字八

菩薩五打

百字九

黃山獨居刀

百字

舟船前後却

百字

高子二木梳

百字三

東邱友船の返

百字三

牛乳融種

百字三

梅子一斤石

百字八

藍瓶一盆水

九十九

祖師

時代不同

伏羲圖大聖釋迦如來と申奉は八國地陶師なり
 志より上求善提下化衆生乃輕力なり
 三祇百劫此間無量の徳住と伏す
 修善薩の道と修し終ふ中三祇後の時を去
 葉仏ののひ冷ひつうと仏となり
 小法師終ふてよおわくか葉はれ捕処の芥子と
 たり終ふ人る生と離れて即覺率天子なり
 乃引信のおねと提衆生の根機熱よりと記と
 清ら時より後熱よりと記と準率より中天子
 摩訶陀王淨飯王太子下り冷ふられ芥子の相なり

次、の因、の照、主二十、年甲、刀よありて。六、その中国、慶
 得、隨、國、淨、飯、王、宮、提、修、樹、下、に、して。三、月、八、日、に、申、也、よ
 摩、耶、丈、人、乃、志、け、掃、り、。繼、生、あり、給、ふ。次、の、七、葉、の
 内、あり、お、お、の、空、ま、り、く、げ、道、も、。父、也、く、給、つ、ん
 那、世、年、十九、年、申、八、月、十六、日、に、此、也、す、。神、駒、の、め、され
 亦、意、お、の、車、匿、童、子、の、駒、れ、に、と、御、世、の、轉、の、伽、耶、城、で
 臨、檀、特、山、の、あり、。阿、泥、く、伽、羅、摩、仙、人、の、所、に、お、あ、れ、
 始、く、お、お、志、給、ふ。次、の、太子、仙、人、の、所、所、有、所、定、と、お、ひ、た
 ち、く、。須、史、に、て、給、給、ひ、き、た、ま、ひ、け、め、ん、は、お、お、詔
 生、給、の、法、の、給、と、。火、よ、ひ、仙、人、の、知、と、お、く、。又、前、多、給
 摩、子、仙、人、の、知、よ、む、り、。此、と、定、定、と、お、お、須、史、に、て

又、給、給、ふ、れ、を、お、詔、の、法、よ、り、と、是、に、給、く、二、仙、と
 ち、く、。危、進、禪、師、の、志、よ、む、り、。六、年、若、所、志、給、つ、り、と、
 生、年、二、年、の、書、十二、月、八、日、明、皇、お、ひ、き、法、行、三
 波、す、あ、つ、ら、雪、山、と、お、お、た、せん、。此、時、の、法、の、冠、兵、魔
 軍、木、障、と、ま、れ、た、ま、子、大、祿、定、よ、入、威、補、力、と、現、。八、千
 乃、磨、毛、等、と、陳、伏、あり、給、ふ。次、の、摩、訶、陀、園、の、西、に、
 山、菩、提、樹、下、に、て、心、と、持、。禪、夜、に、才、に、給、定、。給、
 金、剛、定、と、交、て、如、空、と、唱、給、ふ。次、の、山、を、と、給、ふ、して
 華、敷、と、給、ん、。七、つ、れ、給、法、あり、。此、乃、通、別、因、三、大、乘、と、ん
 擬、も、契、り、ん、。その、と、世、を、自、理、寧、給、法、と、や、め、て
 疾、速、樂、り、入、身、と、。又、思、惟、す、く、。此、を、法、仙、の、

夫釋宗乃源、始鹿野苑、終板橋河、即此小
 於二中間、いま、此、一字、と、説、と、説、已、二、百、六、十
 會、一、大、時、教、小、五、つ、く、共、二、三、一、箇、の、方、便、あり、凡、又
 千、半、八、重、道、理、と、説、け、く、身、以、法、の、言、説、の、と、り
 あり、凡、自、説、自、悟、て、成、佛、と、い、し、故、り、世、多、一、枝
 乃、花、と、い、く、善、は、花、よ、ん、せ、給、ふ、只、大、如、葉、の、
 破、教、微、笑、と、い、く、此、乃、身、と、い、り、正、法、眼、花、温、淨、
 妙、心、と、い、く、摩、訶、迦、葉、は、付、屬、し、い、く、矣、説、は、
 凡、八、傳、て、達、磨、は、即、り、六、傳、て、曹、溪、は、即、り、六、傳、
 と、い、く、懐、深、は、即、り、八、傳、て、黃、龍、は、即、り、六、傳、
 たり、説、り、と、い、く、此、宗、の、を、り、也、

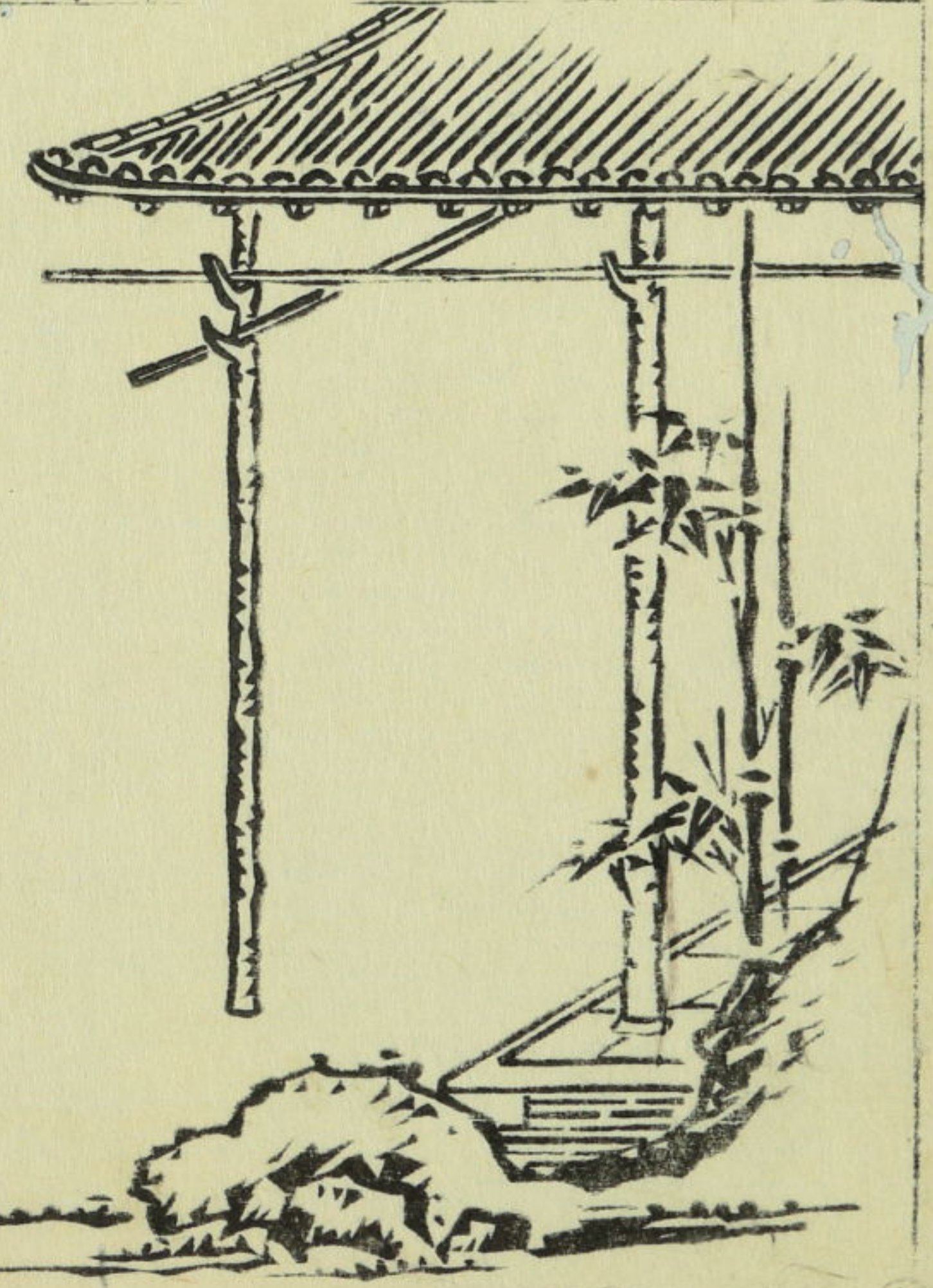
百 花 悦 道
 福 列 乃 冥 雲 志 勤 後
 作 初 仍 山 主 主 主 主
 に 櫻 花 と 主 主 主 主 主
 せり 迺 曰 二 十 季 末
 観 客 と 乃 乃 乃 乃 乃
 と 乃 又 枝 と 抽 乃 乃
 解 一 乃 櫻 花 と 乃 乃
 与 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 疑 乃 乃 乃 乃



百一

鞍平竹杖乃

劉列の香殿智用殿
竹初始山を冬して
契つて解く南陽
の志を仰乃を臨り
抵つて梅一り園よ中
小茅末と艾除く瓦
礫とゆく布と靴の
如くさ人傳り笑
しりる廊のて自
省と乃偈と本と白

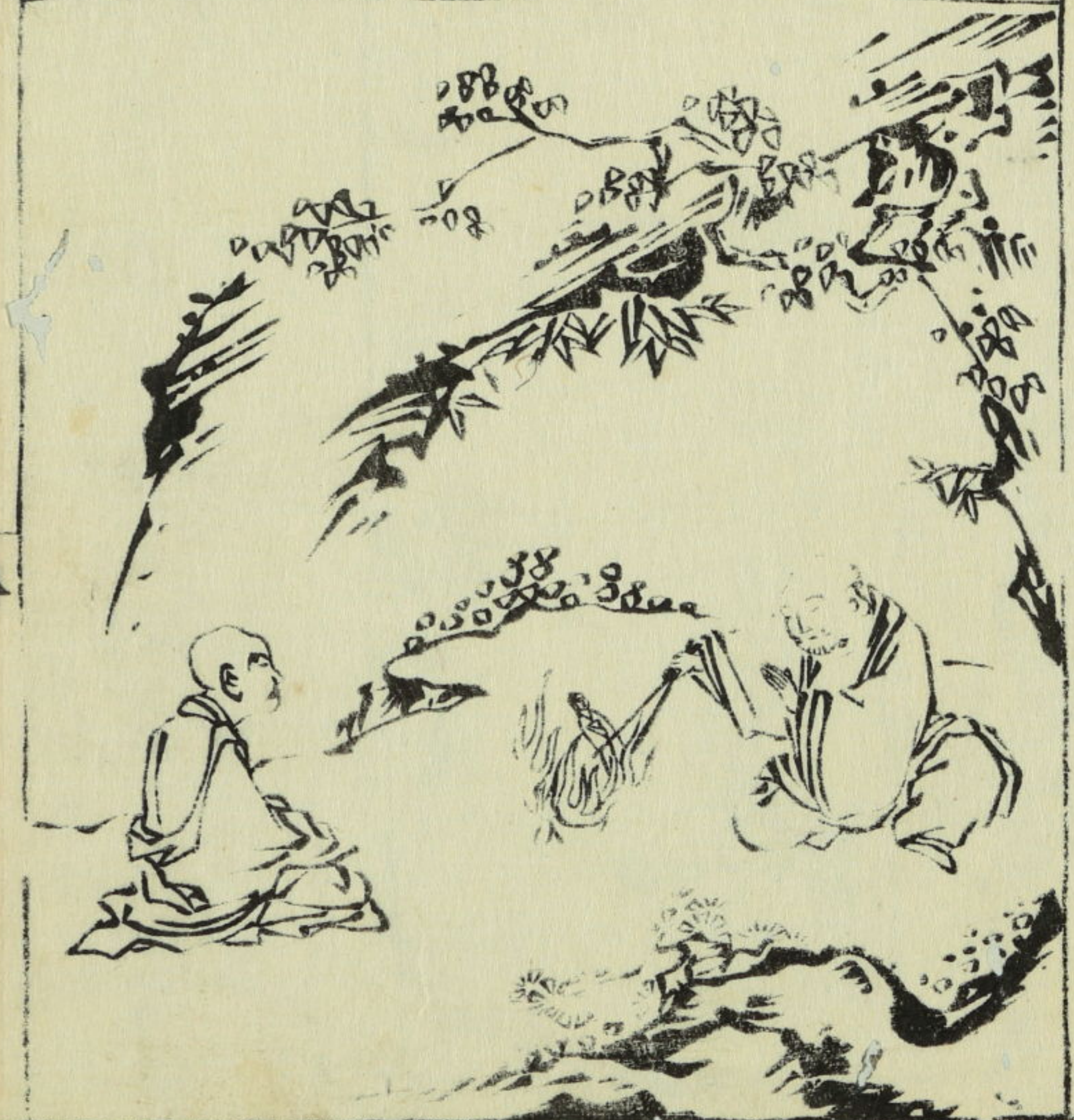


一将のふふとと文の修治と修と知と後
色色の介威後法方ま乃の青らとととと後と

百二

丹霞木佛

丹霞常涪京惠林
引子到天の家
値と事とととと
と焼院とととと
庭がいつととと
舍利とととと
本は堂舍利あん



や。庭の云々あり。何ぞ我と看らんや。院の好い
眉の隘るは

百三 月下大笑

茶山一夜少くも夜を經
けり。忽ち空を開けて
月と見ると大笑。一
色濃湯の如く千里
小窓のうら民としく
之便と家明夜送よ
お振開て直に茶山



お初に流石の云々。お初に大笑と。茶山約と
終くと曰。茶山と櫻ひゆくと。好い。憾ふ。流年。これ
し。よく赤。流石と。有時直に孤峯頂より
月下とと振開て直に茶山と一色

百四 猪頭

散聖行く者。子。猪頭
と。食と。流石。猪頭。同
痛。梶。猪頭。中。流年。と
忽。見。猪頭。流石。猪頭
故。去。流石。猪頭。流石



又湖烟系白鷗前と云く

百六

蜺子

乞之散重行く事
跡頗異あり。何れ終
乃んとしてを云くは
京兆府に根子ありと云
但辰知はまう流心也
何山は即志くうり依
り岡川は混る。律儀は
循つてを云く一綱成

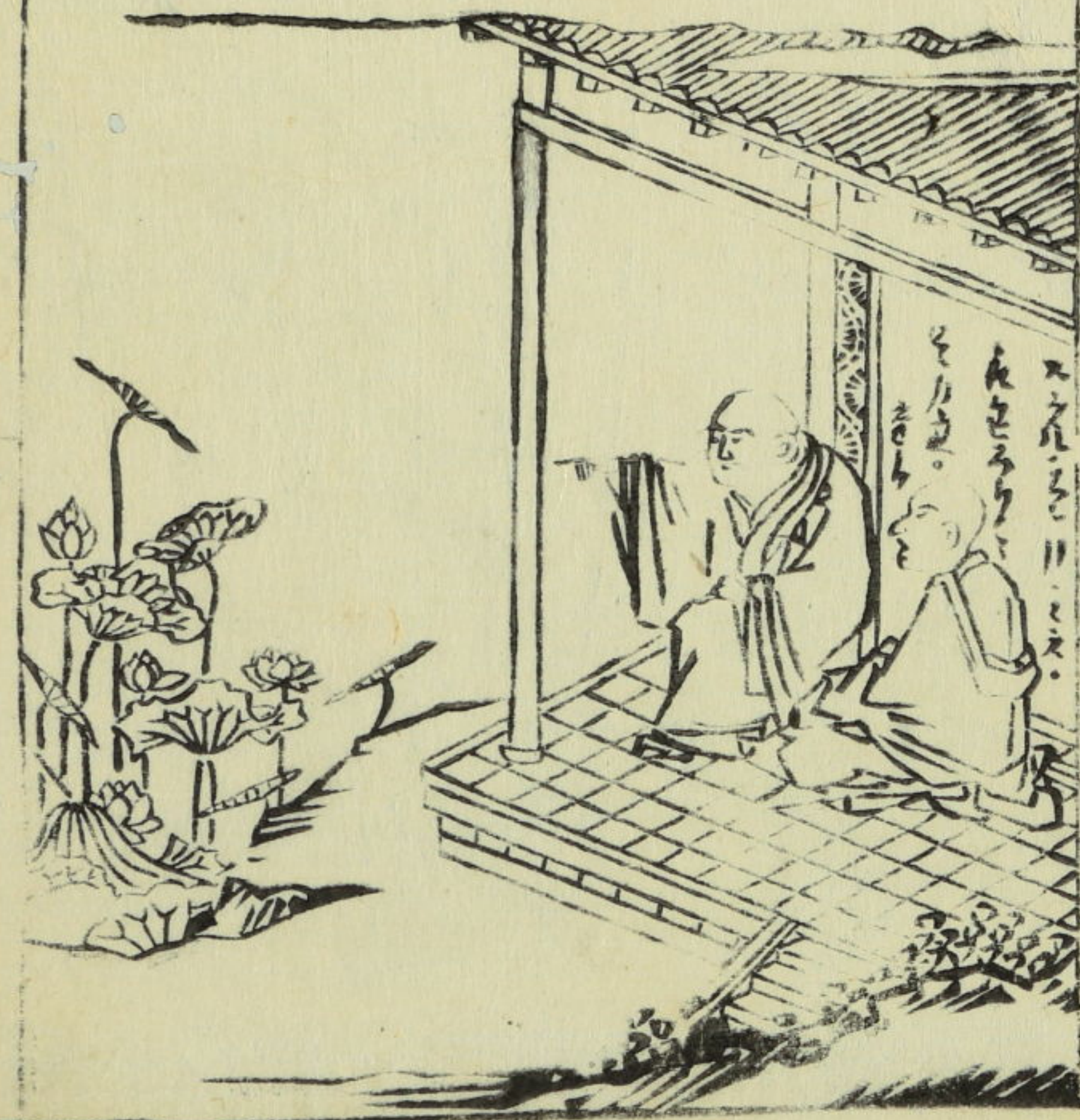


披逐月は仁岸に御燈と云うひろくそも腹り
光るよ八郎東山の白る庵乃紙成の中ふ富と信民
月て松子ありと云

百六

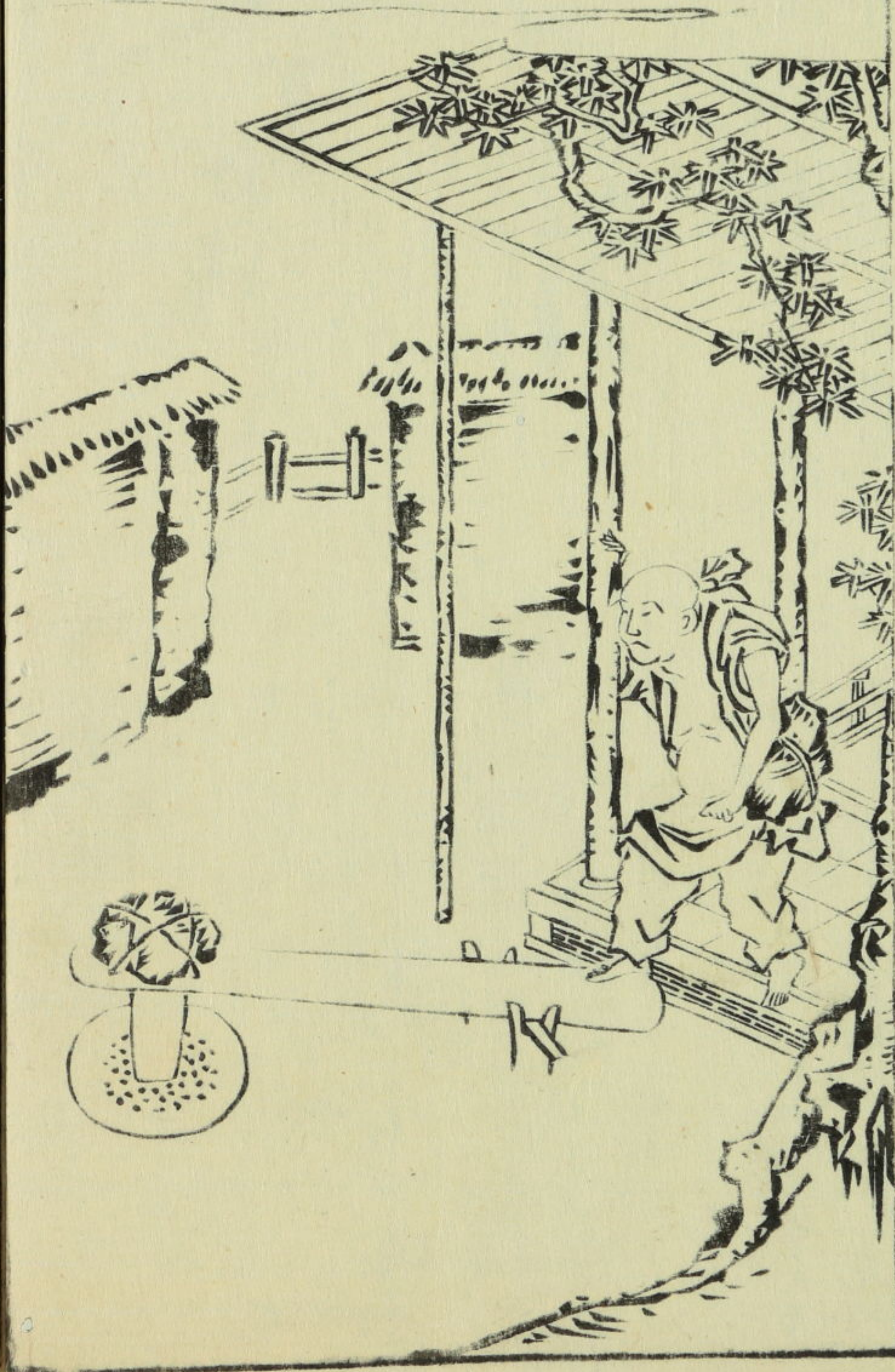
初門蓮華

初門祇園所小海同直
花束水とありう時いん
作の云き花。云あそ
あくはらん。作のつ
荷葉



小脚と梅都らうと紙忘る。淋のりく。隈坑の波
 濁りしとく。又碓房は同吾のり

畫作坊



面子 船子夾山

透列花より船子健誠福作長操を船行と云
 多と那ら心と業西より印とより道名を云ん
 同乃の更とると業山とらあそに海で乃二の同志ふ
 禮て回公未各一より擡く業山の字首と建立す
 帯にまれの平くくもやあそあそ唯山水とあひ情と
 業子自を所修の他修は我和止れ知と云ん
 の美利の座をよあり一人と持来れ或彫琢より
 小橋くくもせ平れゆりあを擡く先師乃圓と然
 せん。蓮よ分推はと透列花亭よむく一の小舟とに
 く縁より海く日と夜れゆく雲の持来れ者と接

と喚山乃首と回と作つら鏡子と鑿う新しんく日ひ海うみ抄しやう
御ご介け別べつ小こ有ありと乃の船ふねとと渡わたるる水みづはは入いるる池いけ也なり

野鴨子

百生一

百丈海一日馬祖と拈

山さんとと好この御ご子しとと乃のて

同どうくくりりくく是これ甚しん乎や

丈ぢやうのの日にち野や鴨やう子し曰いひ甚しん

知ちれれくく去さ丈ぢやうのの云いひ甚しん乎や

去さ祖そ遂すいよよとといいき

て百丈の鼻はな流ながとと拈ねん

丈ぢやうとといいききととるるん

祖そ曰いひ何なにぞぞ曾そくく死しるる丈ぢやう是これ小こ於おてて大だい快かいとと明めい日にち

小こ於おくく祖そ存ぞん小こ陸りく於お丈ぢやう其その面めんおお乃の礼らい白はく席せきと

丈ぢやう部ぶはは祖そ便べんちち下げをを

百ひやく丈ぢやう之し 馬ば祖そ

鼻はなととひひららりりはは子し

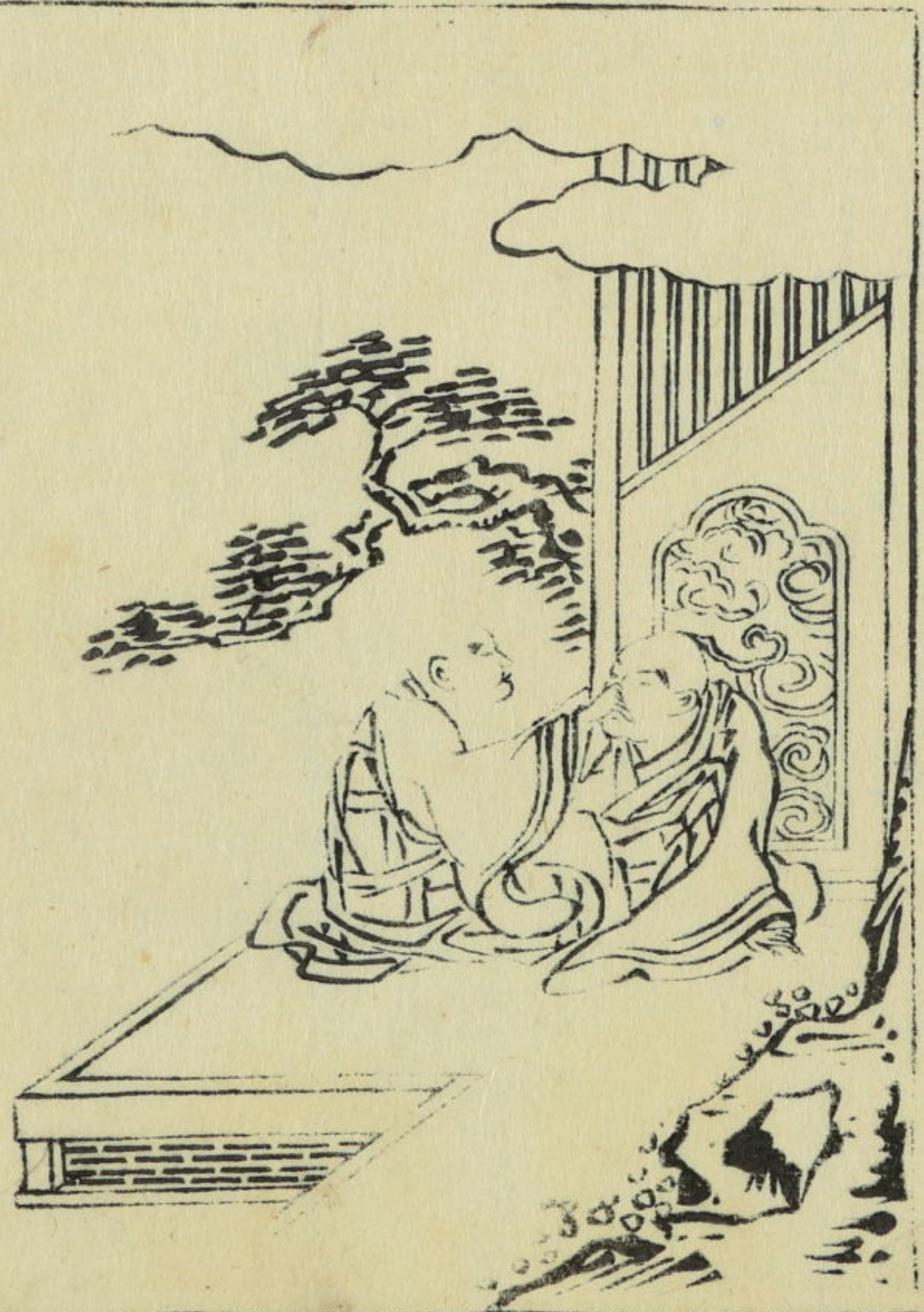
祖そありありひひららりり

ハ百丈ありとたれ

ははりり

あり

あり



百十に

托鉢下堂

高麗の山ありて飯
 下りて一日飯遊し徳
 山神と名めく法堂と
 下りて雪峯廻りて
 ありて飯遊しひび
 老和尚神と托く竹
 知らむ向ひて徳山都
 方丈小飯取。云々法堂中
 ありて同ゆるきと
 掛く曰大小徳山と



東條乃句と今を徳山奉と云く侍者とし
 既と喚で与りしじ。同你を傍と昔ハらや既宗子
 その意と誓と徳山奉の上貴法活毎宗了
 異あり。既傍宗宗前子初く貴法を拵して大子笑
 既宗と云くハ貴法宗老漢末後乃句と今を云ふ
 と地極小天下此人

いんまをせがらんちをかくれ

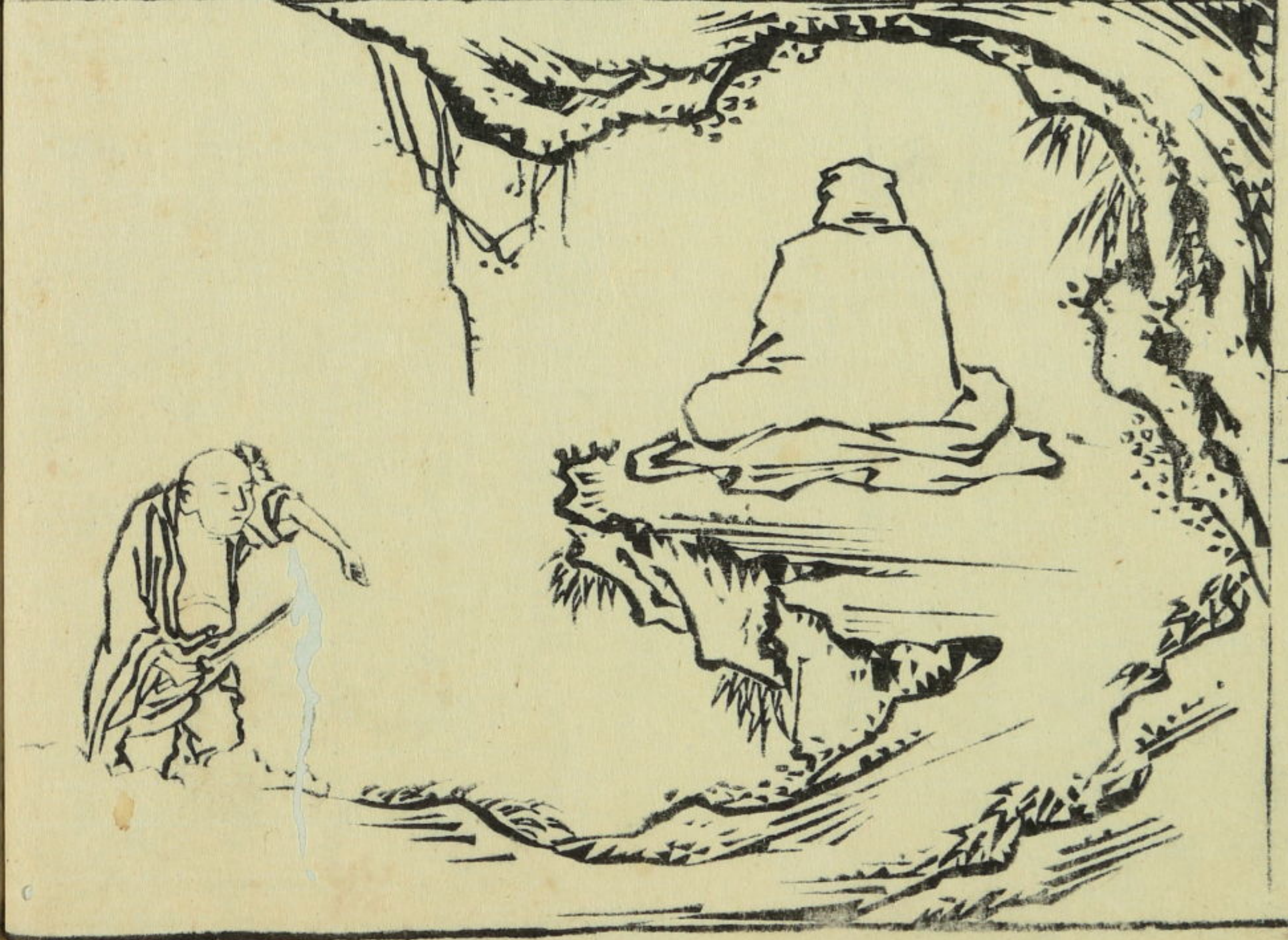
しんまをせがらんちをかくれ

いん後より三年行果

地は

百十八 二祖立書

初祖因小傷補充了
 之のまゝ、事り冬と祖
 湯を去て後編と云と
 子、存下ま立、達明よ
 積、寫勝子并し、祖、恨
 同く曰、汝久き、雪
 中よま立、まゝに、何乃、夏
 之の、心、悲、後
 志と曰、惟、然、ハ、慈、悲
 よ、耳、露、門、と、開、く、廣



龍光と云、終へ祖の曰、法、佛、身、を、此、所、道、眼、初、は、精
 勤、志、を、く、行、じ、た、ら、ん、と、能、く、は、ど、豈、小、徳、小、智、極、心、慢
 心、を、ひ、く、真、棄、と、冀、り、ん、や、作、受、已、く、利、刃、と、云
 て、云、つ、た、乃、臂、と、刺、祖、の、前、よ、至、作、は、あ、り、ら
 日、諸、仏、の、法、即、因、と、云、は、る、や、祖、の、曰、法、佛、の、法、
 即、人、の、後、つ、つ、く、ゆ、る、事、は、ん、日、我、心、を、ま、ま、安、ん
 之、師、安、心、せ、よ、祖、の、曰、心、を、將、事、れ、汝、が、ま、ま、安、ん
 せん、曰、心、を、奪、ら、る、ふ、や、つ、ゆ、り、祖、の、曰、汝、が、ま、ま、安、ん
 安、心、竟、たり、又、折、て、曰、汝、祖、外、は、法、家、と、思、心、
 蒙、く、ま、あ、心、墻、壁、の、ご、く、
 道、小、入、也

百十六 二僧卷卷

法眼因 一斗前主

卷之十 佛之

卷之十 佛之

何り 何れ 之 之 之 卷

と 之 之

作日

一 切

一 失

百十七 栢樹子

趙昆 觀音院 又曰 東

院 後 遠 祥 非 曹 非

郝 鄉 乃 人 あり 姓 郝

氏 真 遠 大 孫 之 遠 孫

傷 何 是 紹 祥

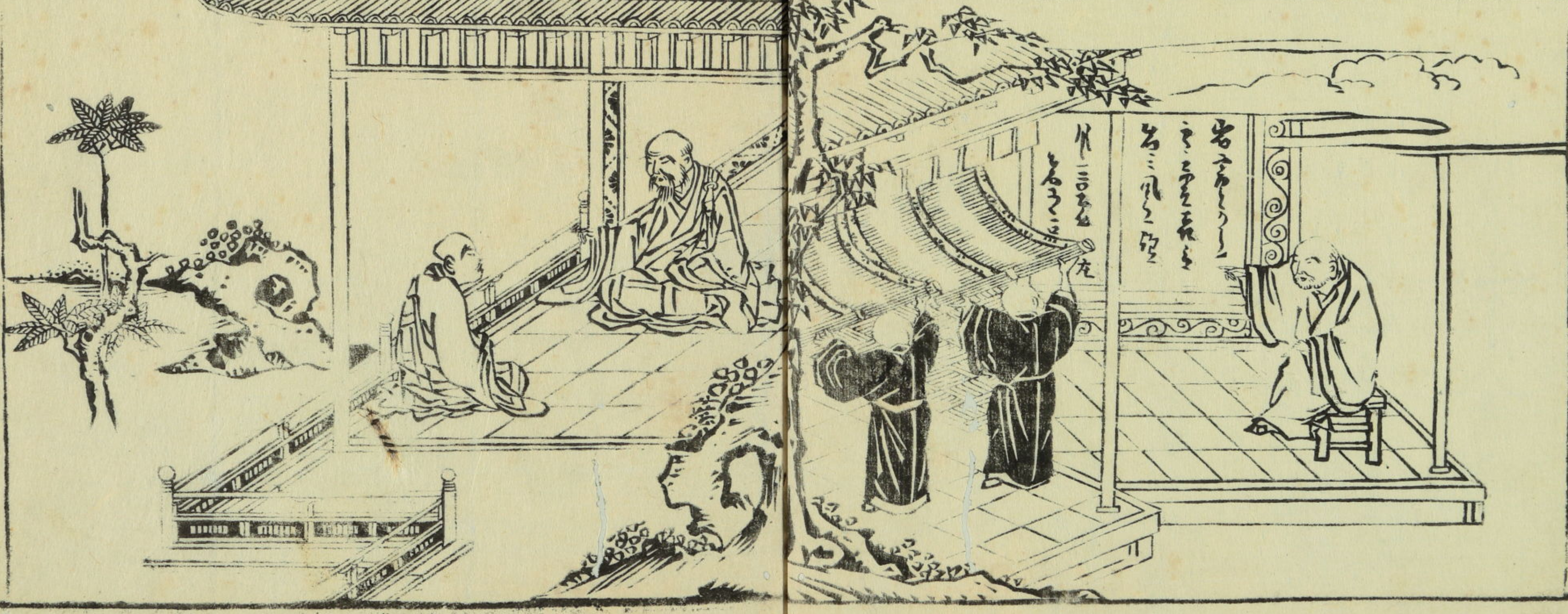
西 來 之 師 云 存 矣

栢 樹 子 傷 乃 云 和 矣

境 之 乃 之 人 小 亦 以

し 之 乃 之 師 の 心 之

我 境 之 乃 之 人 之



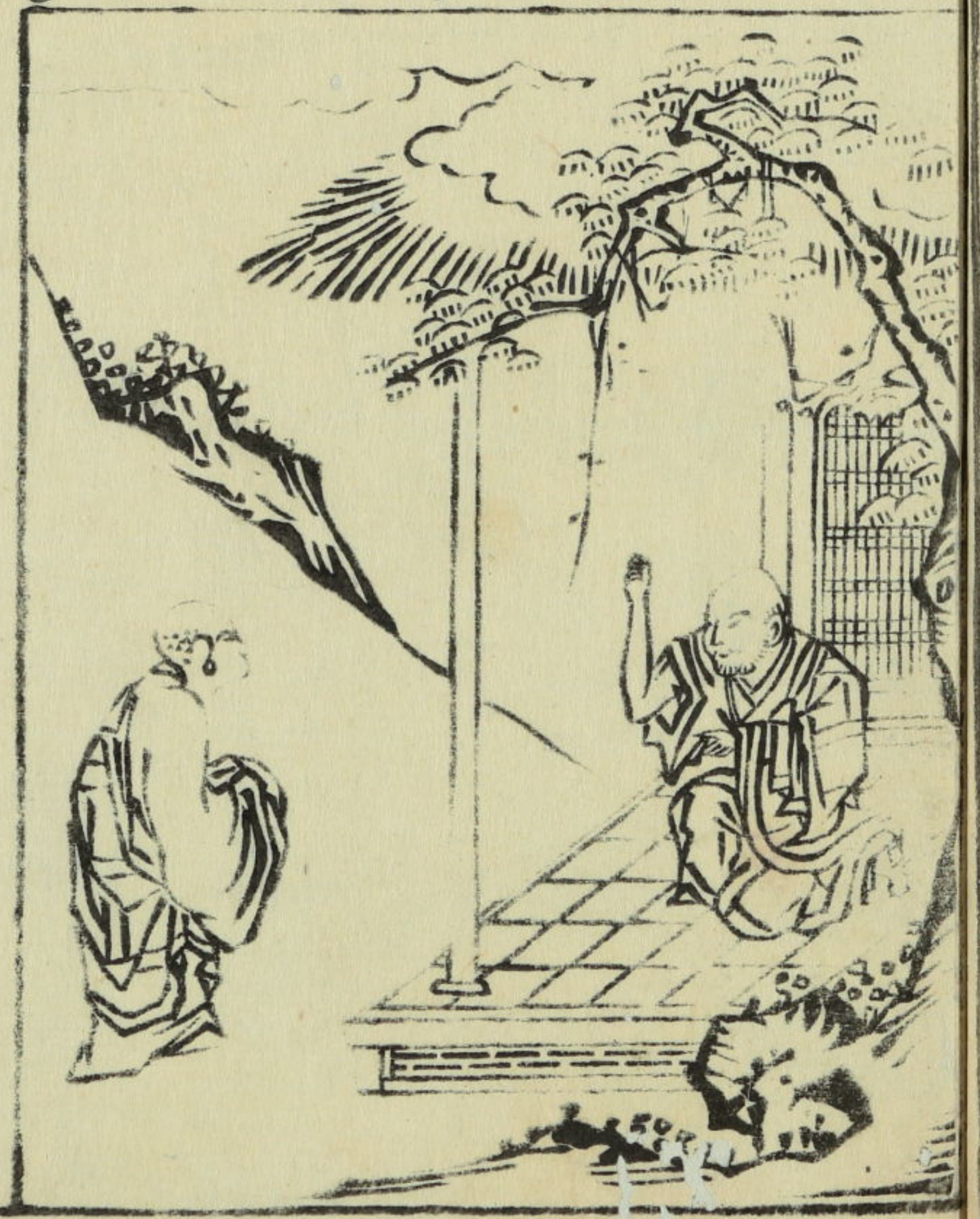
と子とありこれハ伽耶舎多劫ありし時一の室
 温と持く十七祖傍伽耶掘の赤ふじふ羅掘
 ぐ日迦田温と持く何とんととら舎多劫ありし
 偈とつくと考て曰法依の大舎温内平瓶註ね
 毎人曰るるそとて心眼皆おのり父母より
 と異りしそもあつじ難陀受く携て還
 化月風そ殿の洞と減ん滄れとて
 象と復同といつ終つ風吹く善曰
 あつん終る何ん我心の鳴ることそんま
 麻谷湯と振と子とありと皆鳴地とあり
 何ん

百二十 拳頭

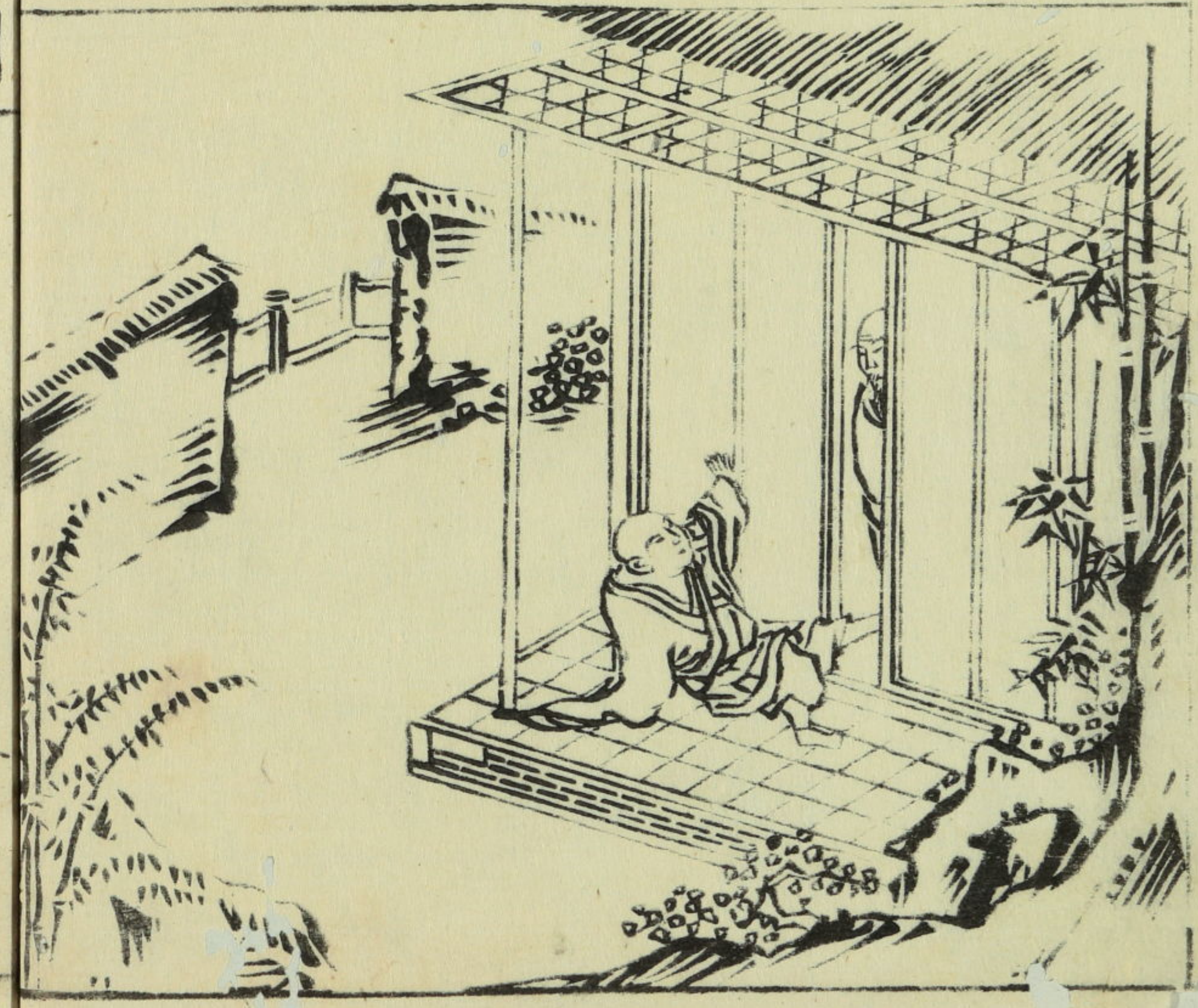
黃龍の心徑外室
 中在る春と豊
 て傍ふ市ていく
 喚春と作を別
 觸喚春と作を
 是は別替といふ也
 喚く其摩とあり

百廿 睡列

白芝
 初の睡列ふ来とて方門と相と列堪て曰
 道に門驚く春ふ耶あつん乃推出とて曰春の時



較輾鑽漚くその
能と掩く口かの
と換じ



百世 修眼明稿

務利全死六の俱眼
和尚始房とつくと
尼實澄れその志と
房とつくとつくと
大の心ありし修眼
天訪房より取りそ
く具子實源房より
乃源と孫と和之天
一持と望くと手
即願修とまゝに寂と



ふんさんとすり秋衣小俣曰吾天然崎南二徳二勃阮
一揚次縁一生用ひ書尺之流く奄化にこ

百世之 回瞻

一人佛鑑和尙

圓相寺住持也

虎

けしるの家山松

のの二人あり虎

と又わらわりの意

山松のハ松鑑乃

松子と云流る



百世

祇林揮劔

湖翁の祇林未尚。毎小文殊菩薩と比ふくみか
精懸しは。小本劔と打く。自身は海魔と亦子傷
あり。美礼をわけて。彼云魔来りりく。劔とひら
揮きて。方丈十由り

是乃如事りこと十二年。

後子劔と垂く言は

傍向十二年あり甚と

去く海魔する。仰曰

賊ハ如見乃家と打ん

十二年の存甚と云て



珍魔さる。昨の曰賊ハ負兎家と打ど

百廿八 大随電活

大随の真後外周小房の
りり小一川の糸の
傷も糸と括く一切
衣生ハ皮骨と裏衣這
乃衣生其のる骨皮
と裏じ仰草鞋と括
トて糸の骨と小房



百廿六 石筆張り

接列の石筆惠房経作。常小引糸とくく人々
接と三平到。昨引と挽物とあして糸糸と看

三平 随取物とみる

作 云平生一法のら

一雀此糸と架と

只本ケ乃

聖以と

射はる

とく



作の云は是利あるの道徳に感ずる所あり。作の云は
此も又之をわらうとていふと即ち一事とわらう作の
禱を求ふると鶴小池り又少異

百廿九 金牛飯補

金牛和者部時小

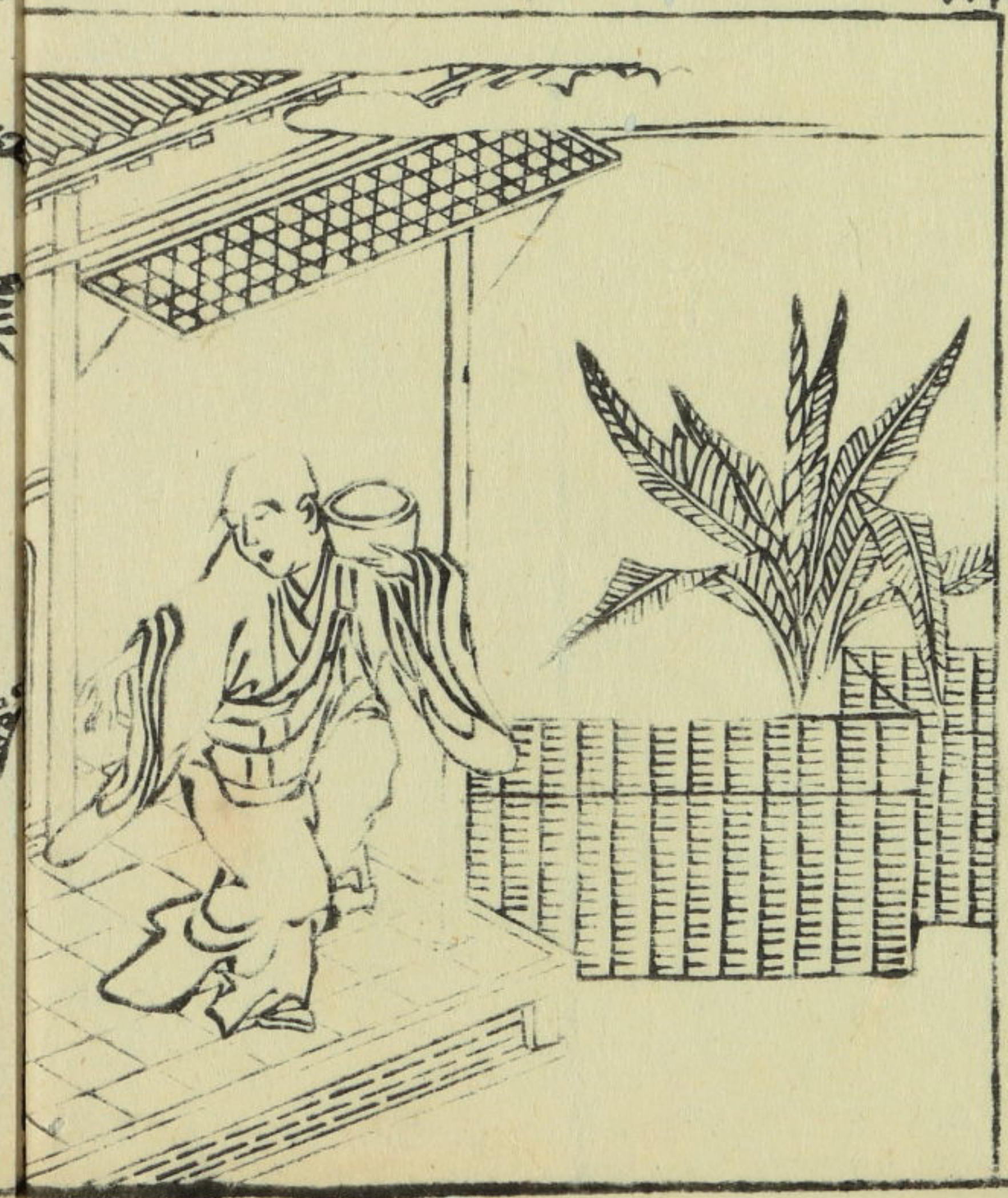
五うこじん自飯補法

わく僧音あふた

舞とる人あしとら舞

あらく云菩薩子

喫飯真と



百卅 自鹿をこ

一人八洞山一人八社

仏の密あり。白麻

の回各あり



百卅一 高亭横越

ゆとるをそく振くを

徳ふあり振くを

横りり。鉄ハきき

の筋福師あり



百歩

香嚴樹上

香嚴一日上香嚴示去くいく。人此樹ふとくはり。
 一樹枝と樹脚枝と踏んば枝と踏んば忽小人あつて。
 一人小袈裟あまをて回がごとくんで。一他小若を
 脚もと喪ひ命を失ひん他小若をんで又化乃回所
 透らん時ふ。

虎爪とをて

あつてのまて
 あつて云樹
 とは即
 四の樹は



一石道乃事れ教呵く大笑あり

女子も定

世云 女子も定
 此世乃時一の女子は子を遊く三昧に入文殊仏是と
 礼一已て白言ひ女人は存子遊くことばくれも我ハ
 遊ぐことあつては。此ハいうあつてゆんぞ仏の回ぬひ女人
 是せと文殊尸利持と深く是せとも是れ大身
 あく喚どもさひへんふと投て幸ともさひへん
 又神是あつて三子大千世界と動うせともは示さひへん
 らん。文殊是をことあつては。この時佛大光
 と教一下方世界と照りて棄諸蓋七菩薩来て
 是れと佛棄法よ即て彼女人と是れ七菩薩

役らあま原又勢つく日才一方物却せりとい
論中支の心ゆへり十一と摘扱と

百廿八 六祖風幡

儀風れ初印宗は
は世ふたくと没殺経
と海ごし時お祀ひ
乃引ふ富らるる因風
報等此幡と動傍二
人ありと対論と一
懐動と一二月動
とふは復とと契



況より六祖の云風の動あはれ懐れ動は色空は
仁者乃心動あり傍言下よたくと大悟と印字ひ
そふふは論と聆と練と一とありとや

百廿九 南泉牡丹

南泉影掃師因
小陸巨大吏の云聲華
法師也甚奇怪也
天地同根万物一體
と通いとと解と
師を前乃牡丹花
と扱と云大吏時久



先皇太子大御所
尚書志用和
尚書下
相發志大
考教と先
魚山は推し
中流に歌して大
中流の歌は
とらに
る長



百三 南泉茅子
傍向南泉の道何れ下
ぞ。南泉のいづく平文後
り買ひたりと又こま
くとはば。

新ひゆき
西へ快と
いれら
と也



百字六

文殊を看同答

久保居士を看と茶とのを語りながらはれら玻璃
盤とらつてをさうり同くのゆつてあるありき

く言ふ所のわ

わらや。そまの云

を。文殊の云れ

は。あれとわく

う茶と契らるや

そま對ら

は



百字七 臨海依埋

臨海善法多々地と池

黄檗の云困耶臨海

の云擧也筆に文

るにどう困志まん黄檗

便打佛佛持とらと

とめて黄檗とつと

たとん黄檗維形



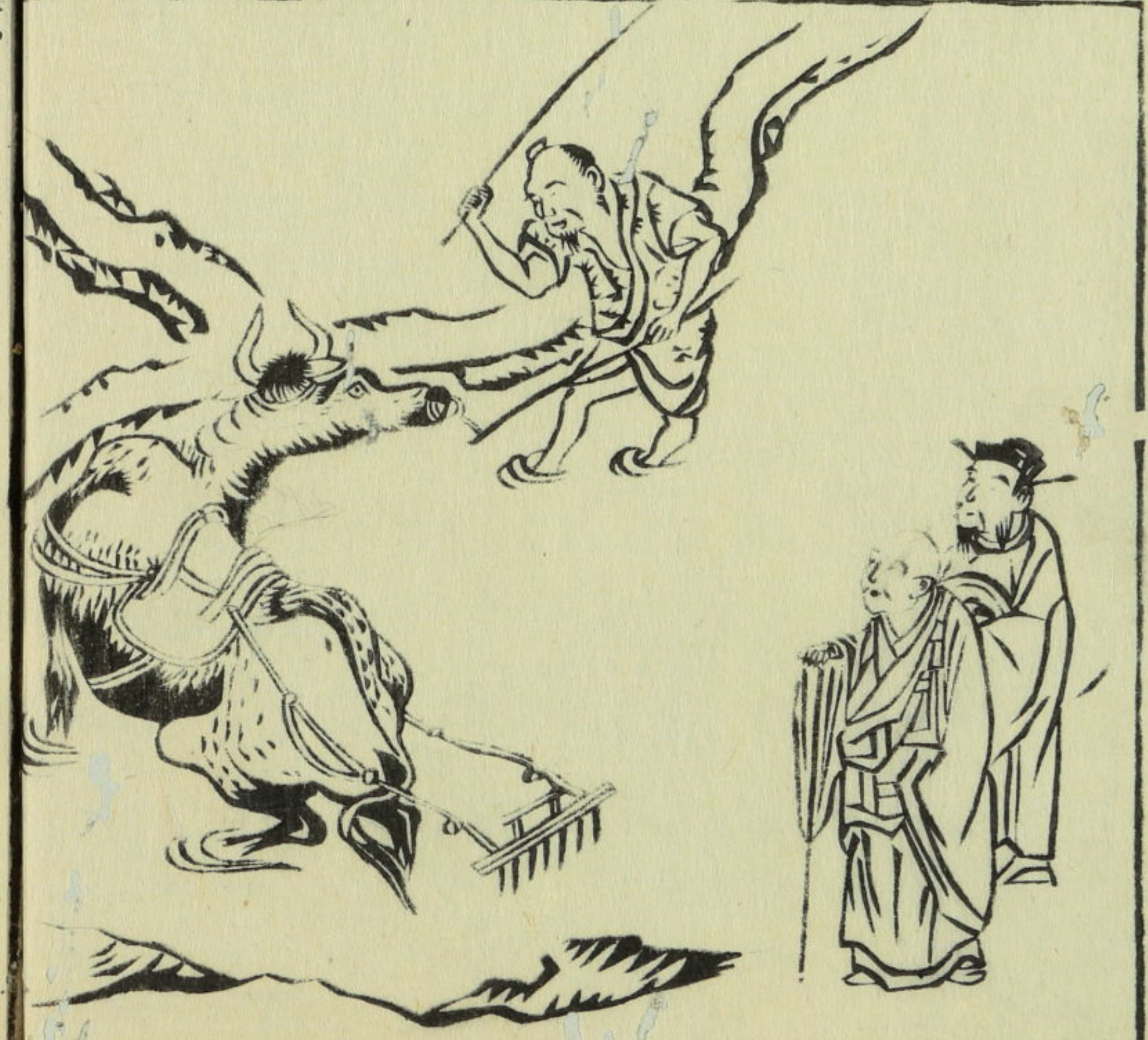
我とおせと子維形近くおんで云。和当筆の

風類候乃を礼らるとゆりえん黄檗起、便維形

とん。深淵比と擧て云法方火葬。我這裏ハ一

時ハ法理せん

百三十八 黄檗木毒打
黄檗運像作一日裴
相國と以次農夫乃
田と耕とて人々泥
深くもく牛ゆくと
何とていふも支役也
裴惻然としてこれと
恨じ作云毒打裴の
云大者か識何ぞや
乃とていふとてゆり



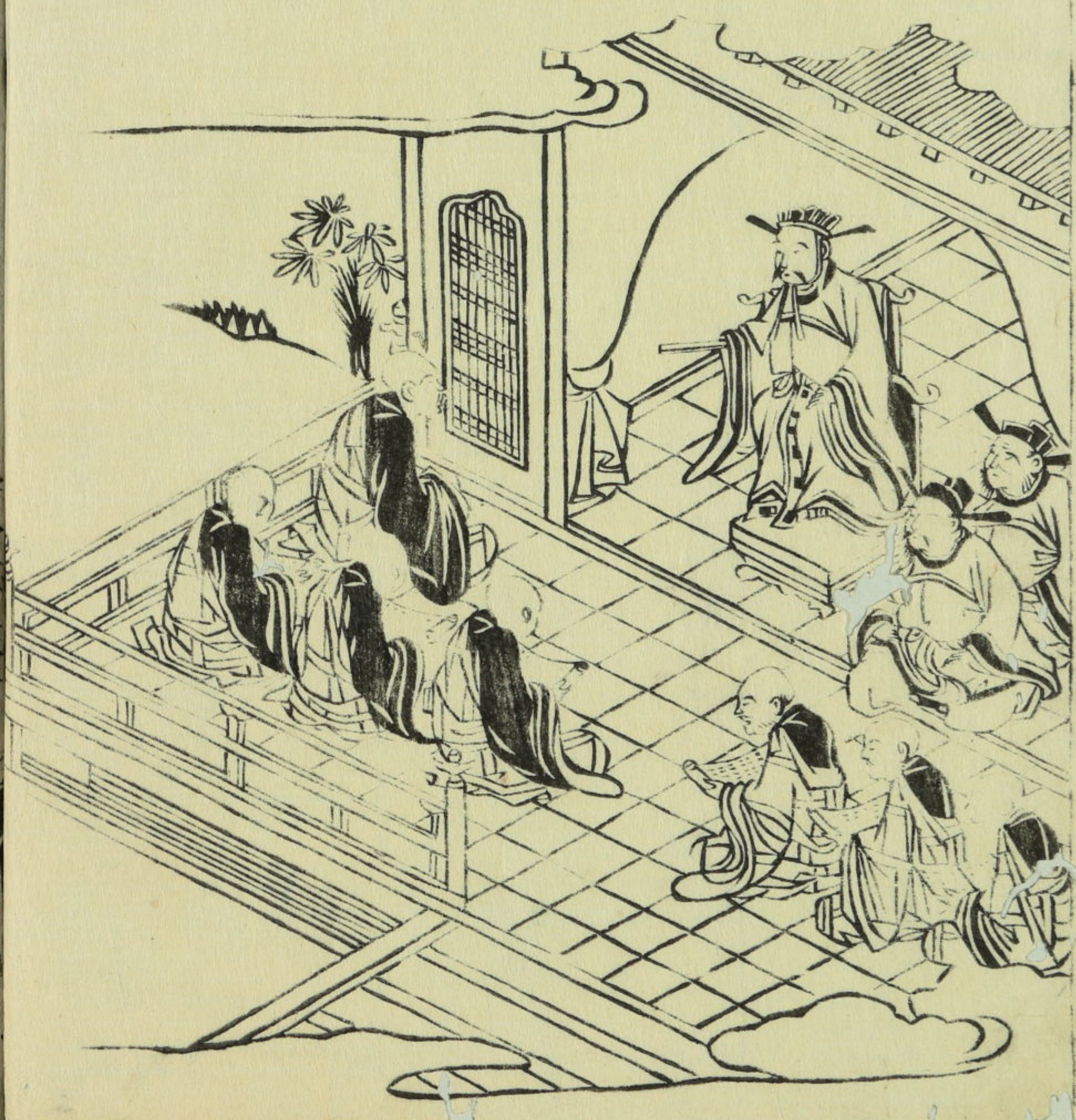
師の曰ま隻脚見新とてゆり

百三十九 茶山獨洞刀
茶山乃儂師 裴
と茶山と獨洞刀
刀の言 教の云をにもの
うまとあは 師とあは
刀とぬのく 茶馬はよ
折れとあせり
百三 茶山獨洞刀
茶山乃儂師 裴
と茶山と獨洞刀
刀の言 教の云をにもの
うまとあは 師とあは
刀とぬのく 茶馬はよ
折れとあせり



茶山獨洞刀
茶山乃儂師 裴
と茶山と獨洞刀
刀の言 教の云をにもの
うまとあは 師とあは
刀とぬのく 茶馬はよ
折れとあせり

お息な家
 入息な家
 小糸はは
 福小のの
 百の万位
 空いと物と



維新巻五

廿七

百字三 牛以馳福作
 結福神 ありあり
 と踏てるあるれど百の
 花と合と之妙なりは程
 小忍くほいあるもとる

百字に 投子一斤石
 投子もあがり 大座を
 あり 高き年と四美の
 くと投子石子括て日
 三世法弘 意許よありと

會本巻五



廿八

百字五 慈明一盃水

慈明の圖 禪師一日の

丈内は 杖を 一盃水と

安くと 糸一の 劔とよ

うと 下小一 雙の 家

靴と 慈と 杖と 杖

子 搦て 度と 傍の 下

小入と 度と 杖の 傍

杖と 度と 杖の 傍

